


## 第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	日向魅力アップ事業			事業番号	24-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	辻 雅弘	商工観光課	小菅 賢一	

## 計 画 (Plan)

総合計画体系	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち		
	基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり		
	施策展開の方向	11	多くの人を訪れる賑わいのあるまちをつくる		
	施策	24	魅力ある観光の振興		
予算事業名	日向魅力アップ事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前	～	終了年度	—
関連法令等					
国・県の計画等	神奈川県観光振興計画		計画期間	令和元年度～令和3年度	
関連個別計画	大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～		計画期間	平成30年度～令和4年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	平成30年度の新東名高速道路伊勢原ジャンクションの開設と併せて、令和元年度には伊勢原・大山インターチェンジの開設が予定されており、交通アクセスの飛躍的な向上による来訪者の増加が見込まれています。これに伴い、広域からの集客など、観光を振興していく上で様々な波及効果が期待されるとともに、首都圏近郊の魅力ある観光地づくりが求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	日本遺産の構成文化財である日向薬師などの歴史・文化と豊かな自然の魅力を生かした個性的なまちづくりを進め、他地区との連携による地域の活性化を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	国内外から日向地区を訪れる観光客等				
事業内容 (手段、手法など)	地元との連携による日向地区の観光資源を活かした企画イベントの開催、手書き地図の作製による地域資源の再発見・再評価及び「よりみち」の促進、案内標識等の観光インフラの整備に取り組むとともに、観光基礎調査結果に基づいた日向地区の観光まちづくりを進めます。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	日向地区で実施する企画イベント数	5イベント実施	5イベント実施	6イベント実施	
	地元との観光振興に係る協議	事業を通じた協議	協議内容に基づく観光振興策の実施	協議内容に基づく観光振興策の実施	
目標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	日向地区での企画イベントの実施による賑わいの創出	5回/年 (平成28年度)	5回/年	5回/年	6回/年


 事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)					
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	○すべて直接実施                      ●左記以外				
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>	(一社)伊勢原市観光協会	
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>		
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>		
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	日向地区で実施する企画イベント数	5回/年			
	地元との観光振興に係る協議	協議(2回)			
	観光インフラ整備(案内標識の設置、ハイキングコースの整備等)	ハイキングコース整備の実施			
<b>実施した取組の内容</b>	地元との観光振興に係る協議については、たかべや緑の里振興会との協議及び手書き地図ワークショップ開催時における協議にて実施した。ハイキングコース整備については、つづら坂と浄苑願寺奥の院の2箇所について修繕を行った。				
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>年度</b>			
	<b>【現状値】</b>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	日向地区での企画イベントの実施による賑わいの創出	5回/年 (平成28年度)	5回/年		

<b>コスト</b>	<b>年度</b>		<b>平成30年度 実績</b>				<b>令和元年度 実績</b>				<b>令和2年度 実績</b>			
	<b>事業費合計 (a)</b>		2,723	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>内訳</b>	<b>国県支出金 ①</b>	1,569	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		<b>地方債 ②</b>	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		<b>その他特財 ③</b>	99	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		<b>一般財源 (a)-①-②-③</b>	1,055	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>国県支出金の内容</b>		新たな観光の核づくり等促進交付金(1,569千円)											
	<b>その他特財の内容</b>	<b>受益者負担</b>	○有      ●無		<b>前回の改定時期</b>									
		<b>その他</b>												
	<b>人件費</b>	<b>正規職員</b>	0.25	人	2,128	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		<b>その他の職員</b>	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		<b>人件費合計 (b)</b>	0.25	人	2,128	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	<b>トータルコスト (a)+(b)</b>		4,851	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>単位当たりコスト</b>	<b>対象数</b>	<b>定義</b>	日向地区観光客数		単位			単位			単位		
			<b>対象数</b>	159,874		人								
<b>総事業費/対象数</b>		30		円			円							

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	日向地区で実施する観光企画イベントや登山道修繕など、当初計画どおりに実施しました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市事業内容等	一律に比較できない事業であると考えられます。
有効性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	観光企画イベントの実施や登山道の継続的な修繕を行うことで、来訪者ならびにリピーターの増加に伴う観光振興や地域の活性化に繋がっているものと考えられます。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	観光企画イベントの実施にあたっては、行政だけではなく、地元観光振興団体や自治会、観光協会、NPO法人等との連携を図りながら、円滑に進めました。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	隣接する大山地区や七沢地区(厚木市)をはじめとする他地域の観光資源を相互に活用し、多様な魅力を提供できる広域的な周遊ルートの確立及び観光拠点づくりを構築する必要があります。また、道路の狭隘や駐車場不足などにより引き起こされる交通渋滞や日向3施設の活用方法についても対策が必要であると考えられます。
令和元年度の取組方針		日本遺産の認定や日向地区に点在する歴史的・文化的資源を活用した魅力アップと誘客の促進に向けて、平成29年度に実施した日向観光基礎調査業務の結果等を参考に、地元や関係団体、また、教育委員会と連携を図りながら、当該地区の観光振興策の確立に向けた取組を進めていきます。		
所管部長による総評		県内外に向けた誘客イベントの実施や登山道修繕などの日向地区の魅力アップ事業については、継続して進めるとともに、大山・比々多地区との周遊ルートの構築を図り、観光客の滞在時間の延長ならびに観光消費額の増加に繋がる取組を進めていく必要があります。また、伊勢原・大山ICの開設や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に伴う来訪者の増加に対応する受入態勢の強化についても進めていく必要があります。		